

令和8年6月15日
生涯学習・文化財課
担当 松本・真鍋
(内線 5356)
直通 087-832-3787

記念物の指定にかかる国の文化審議会の答申について

国の文化審議会（会長 日比野 克彦）は、令和8年6月19日（金）に開催される同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、史跡の追加指定について、下記のとおり文部科学大臣に答申を行う予定ですので、お知らせします。

記

1 答申される香川県内の記念物

(1) 史跡

新名称 史跡「讃岐遍路道 大興寺道 曼荼羅寺道 曼荼羅寺境内 出釋迦寺境内
甲山寺境内 善通寺境内 道場寺(郷照寺)境内 根香寺道 根香寺境内
國分寺道 志度寺境内 長尾寺境内 大窪寺道 大窪寺境内」

指定距離(遍路道)約10.6km 指定面積(札所)565,691.45㎡



旧名称 史跡「讃岐遍路道 大興寺道 曼荼羅寺道 曼荼羅寺境内 出釋迦寺境内
甲山寺境内 善通寺境内 根香寺道 根香寺境内 志度寺境内
大窪寺道 大窪寺境内」

指定距離(遍路道)約6.2km 指定面積(札所)553,942.08㎡

※今回の追加指定に伴い、名称が変更になります。

※根香寺道は平成25年に指定されており、今回、範囲が追加されます。

※香川県の遍路道総延長193.5km、県内札所寺院22か寺

2 文化財の概要

資料1-1、資料1-2のとおり

3 答申される史跡の件数

(1) 全国の史跡(特別史跡含む)の件数

全国の新規指定件数2件、追加指定等件数20件

答申・告示後の全国の史跡の指定件数1,925件(うち特別史跡66件)

(2) 香川県の国指定文化財数・史跡(特別史跡含む)の件数

香川県の追加指定件数1件

答申・告示後の香川県の国指定文化財件数186件、うち史跡26件(特別史跡1件含む)

(追加指定のため、件数に変更なし)

さぬきへんろみち だいきこうじみち まんだらじみち まんだらじけいだい しゅつしゃかじけいだい こうやまじけいだい
讃岐遍路道 大興寺道 曼荼羅寺道 曼荼羅寺境内 出釋迦寺境内 甲山寺境内

ぜんつうじけいだい どうじょうじ ごうしょうじ けいだい ねごろじみち ねごろじけいだい こくぶんじみち
善通寺境内 道場寺(郷照寺)境内 根香寺道 根香寺境内 國分寺道

しどじけいだい なおおじけいだい おおくぼじみち おおくぼじけいだい
志度寺境内 長尾寺境内 大窪寺道 大窪寺境内

1 四国遍路の概要

四国遍路は、弘法大師ゆかりとされる多数の寺社を巡る、長大な霊場巡礼であり、弘法大師信仰に支えられ、僧侶や修験者から民間に広く普及した我が国を代表する巡礼である。四国4県にまたがり88か所の札所を繋ぐ遍路道は、四国全域という広い範囲に配置された寺社(複数の霊場)を巡る回遊型巡礼を支えた円環状の巡礼道であり、全長1,400kmにも及ぶ。

その始まりは定かではないが、平安時代後期の『今昔物語集』や『梁塵秘抄』などに「四国の辺地」と記されるように、僧侶等による修行に源流が認められ、中世末頃には、僧侶等による修行に加え、僧侶以外の人びとによる巡礼も始まる。

江戸時代に入り、「八十八ヶ所」が固定化し、貞享4年(1687)の『四国辺路道指南』(真念編著)が出版されて以降、現在に続く「四国遍路」の形式が広く普及していく。大師堂の建立や茶堂、通夜堂、道標の設置など、札所や遍路道が徐々に整備されていく。

明治時代には政府による宗教政策(神仏分離)の影響を強く受け、一部の札所の移転等の変容はあったが、維持され、現在にまで継承されている。

四国遍路の本質的価値は、「江戸時代に確立・定着した四国遍路の実態と変遷を示す」ものであると言え、以下の3点に集約できる。

- ①江戸時代に確立した特徴的な巡礼の様相を伝える札所と遍路道
- ②四国全域を円環状に廻る回遊型巡礼を反映した遍路道
- ③一般的な江戸時代の社寺とは異なる方向で発展した札所

これらに加えて、その他の価値として以下の点も挙げることができる。

- ・札所として固定化される以前の多様な歴史を有する。
- ・かつての景観(佇まいや面影)を今なお良好に残す。
- ・絵図や日記などに代表される動産資料から四国遍路道の歴史をうかがい知ることができる。

2 讃岐遍路道の概要

讃岐遍路道とは、四国遍路道のうち、香川県域に所在する江戸時代に確立・定着した四国遍路の実態と変遷を示す札所と遍路道で構成されるもので、第67番大興寺から第88番大窪寺までの22か寺が所在する、延長193.5kmの道筋である。既指定は次表のとおりである。

指定年	指定範囲
平成 25 年	根香寺道
平成 26 年	曼荼羅寺道
平成 29 年	善通寺境内
令和 3 年	大窪寺道
令和 4 年	志度寺境内
令和 7 年	甲山寺境内、大興寺道、曼荼羅寺境内、出釋迦寺境内、根香寺境内、大窪寺境内

3 追加指定される札所・遍路道の概要

道場寺（郷照寺）境内（綾歌郡宇多津町）

道場寺（郷照寺）は綾歌郡宇多津町に所在する時宗寺院で、^{ぶっこうざんこうとくいんごうしょうじ} 仏光山広徳院郷照寺と号する四国八十八ヶ所霊場第 78 番札所である（寺号の併記は四国遍路の札所寺院の道場寺と時宗寺院の郷照寺を併用しているため）。

縁起には（「寺開基由来帳」延享 5 年(1748)）、天台宗寺院として創建され、空海の四国霊場開基の際に 78 番札所となり、正応元年（1288）に一遍が時宗に改宗したとあるが、古代から中世前半の状況は判然とせず、本尊阿弥陀如来の制作年代（平安時代後期）や境内出土の瓦などの考古資料の年代観から、12 世紀頃までには創建されていたと考えられる。中世後半には 24 代遊行^{ゆぎょう}上人^{しょうにんふがい}不外（1460～1526）から 7 か寺の末寺を賜るなど寺勢を誇ったが、天正年間（1573～92）には兵乱で焼失する（「寺開基由来帳」）。

江戸時代に入り、文禄年間（1592～96）に僧覚阿弥が「郷照寺」として再興したという記録があるとともに（「御領分中宮由来・同寺々由来」（寛文 9 年（1669））、高松藩の庇護を受けていたという寺蔵史料もあることから、江戸時代初めには再興を果たしていたようである。さらに、貞享 3 年（1686）の銘をもつ梵鐘^{ぼんしょう}や元禄 13 年（1700）に入寂^{にゅうじやく}した中興 4 世浄阿弥陀仏^{じょうあみだぶつ}を「後中興」と呼称することから、17 世紀後半にも境内の大規模な整備が行われたと考えられ、「寺開基由来帳」には、本堂、聖徳太子堂、石像弘法大師堂、熊野本現社、鐘楼、客殿・庫裏などが書き上げられている。また、天明 4 年（1794）には本堂の上方に平場を設けて大師堂を改築したほか、寛政 5 年（1793）に塩飽島や備前国下津井の講中からの寄進を受け、18 世紀末までに茶堂を再建するなど、札所寺院としての整備も進められた。境内の石造物には接待碑^{せったいひ}もあり、宇多津村近郷講中が接待を行っていたほか、土佐の遍路の記録から対岸の備後からも接待者が訪れ、接待を行っていたことが分かる（「四国日記」文政 2 年（1819））。近代にも諸堂の整備は継続し、大師堂の建替（明治 10 年（1877））、大師堂への礼堂の付加（大正 6 年（1917））などが行われた。

現境内は江戸時代に整備され、本堂（19 世紀前葉^{こうしん}）、庚申堂（18 世紀中葉）、大師堂（明治 10 年（1877））、鐘楼（19 世紀中葉、昭和 50 年に現位置に移築）、客殿など、江戸時代の建物も数多く現存しており、絵図等に描かれた近世の札所寺院の境内景観が良好に残されている。

また、遍路の父とも言われる真念^{しんねん}が著した遍路ガイドブック「四国辺路道指南」（貞享 4 年（1687））には、「讃州丸亀城下へわたる時は、宇足津道場寺より札はじめよし」と案内されてお

り、四国遍路は必ずしも1番の霊山寺から回る必要がないことを示すとともに、どこから始め、どこで終わるといふ決まり事はなく（回遊型巡礼）、周回し続けることもできるという巡礼形態に関係するものとして注目できる。

根香寺道（坂出市青海町）

四国八十八ヶ所霊場第81番札所白峯寺から第82番札所根香寺を結ぶ全長約4.8kmの遍路道のうち、平成25年に史跡指定された約2.2km（坂出市、高松市ともに約1.1km）に加え、今回、条件が整った約2.1km分（坂出市分）が追加指定される（計約4.3km、坂出市分約3.2km、高松市分約1.1km）。

根香寺道は古道の旧状を良好に残し、遍路道沿いには道標10基、丁石48基、遍路墓1基、下乗石・灯籠・石仏など8基が確認でき、遍路道の道筋を裏付けるとともに、江戸時代の往来の実情をよく伝えている。

國分寺道（坂出市青海町、高松市国分寺町）

四国八十八ヶ所霊場第82番札所根香寺から第80番札所國分寺に向かう全長約4.5kmの遍路道のうち、約2.3kmの区間である（坂出市分1.3km、高松市分1.0km）。

江戸時代前期から中期には、第80番國分寺から第81番札所白峯寺へ向かう道が遍路道として利用されていたが（白峯寺道）、国分坂と呼ばれる途中の坂が急峻な難所であったため、江戸時代後期には、第79番札所天皇寺から第81番札所白峯寺に参拝し、根香寺道で山中を抜けて第82番札所根香寺に詣でた後、第80番札所國分寺を目指す巡拝ルートが勧められ（『四国遍礼名所図会』（寛政12年（1800））、多くの遍路は推奨順路で参拝するようになった。

今回、指定する國分寺道は、根香寺から根香寺道に戻り、起点となる根香寺道の19丁付近から國分寺に向かう遍路道である。起点付近には「左こくぶ道」の道標（江戸後期～明治期）や地藏菩薩（寛政9年（1797））が建立され、遍路を國分寺道に導いている。国分坂という難所を避けるために推奨された遍路道であり、起点から旧青海村と旧国分村の村境までの区間の高低差は少ないものの、そこから下には、近代に「遍路ころがし」と呼ばれた急斜面があり（距離0.4kmに対して、高低差171mを図る難所）、九十九折に急斜面を下りていく道筋となっており、変わらず難所として遍路を苦しめた。

指定された区間は、根香寺道の19丁の起点から古道の旧状を良好に残す約2.3kmであり、四国遍路の遍路道として機能した信仰を示す道であるとともに、江戸時代の往来の実情をよく伝えている。

長尾寺境内（さぬき市長尾西）

長尾寺はさぬき市長尾西にある天台宗寺院で、ふだらくさんかんのんいんが おじ補陀落山観音院長尾寺と号する四国八十八ヶ所霊場第87番札所である。

創建は不明だが、江戸時代中期の『補陀落山長尾寺りやくえんぎ略縁起』には、天平11年（739）に行基が本尊しょうかんのんぼさつ聖観音菩薩を刻んで開山し、天長2年（825）にふじわらふゆつぐ藤原冬嗣が再興したとあるが、実態は判然

としない。仁王門の前に設置されている2基の^{きょうどう}経幢の紀年銘から（弘安6年（1283）、弘安9年（1286））、創建は少なくとも中世前半に遡ると考えられる。

その後、中世末には戦乱により退転していたようだが、慶長年間（1596～1615）に讃岐国を治めた生駒氏が堂宇^{どうう}を再建した（『補陀落山長尾寺略縁起』）。その後、初代高松藩主の松平頼重^{まつだいらよりしげ}も再興に関わり、天和3年（1683）には真言宗から天台宗へ改宗を命じたほか、元禄6年（1693）には聖観音立像と寺領が寄進されるとともに、元禄14年（1701）には観音堂（本堂）、阿弥陀堂が再建されており、縁起によれば、元禄7年（1694）建立の仁王門も頼重の寄進となる。

その後も境内整備は進展し、寛政12年（1800）の『四国遍礼名所図会』には、仁王門から入り、広大な空閑地^{くうかんち}を経て、正面に本堂、その東に大師堂が建ち並び、西側に寺務空間となる方丈、半世紀後の嘉永6年（1853）『讃岐国名勝図会』^{さぬきのくにめいしやうずえ}には本堂西に護摩堂が描かれるなど、19世紀前半までに伽藍を構成する主要建物が整備されていく。幕末から近代初頭にかけても諸堂の整備は進められており、嘉永7年（1854）には本堂が再建されるとともに、安政2年（1855）には天満宮拝殿が修理され、明治元年（1868）には護摩堂が再建されたほか、大正15年（1926）には札所寺院には不可欠な大師堂も再建されている。

現境内は1町四方の広がりを持ち、仁王門から入り、広い空閑地を経て、正面に本堂、その東に大師堂、西に護摩堂が並び建ち、境内西半には本坊や納経所などの寺務空間や天神社が所在しており、絵図等でみられる江戸時代からの伽藍配置が継承されているとともに、本堂（嘉永7年（1854））、大師堂（大正15年（1926））、護摩堂（明治元年（1868））、仁王門（江戸中期（18世紀初頭））といった江戸時代から近代の建物が現存するなど、江戸時代後期の札所寺院の境内景観が良好に残されている。

4. 既往の調査

①道場寺（郷照寺）境内

『讃岐遍路道 郷照寺 調査報告書』

調査機関：香川県・香川県教育委員会

調査期間：平成29年度（令和元年度 報告書刊行）

調査概用：建造物・石造物・所蔵文化財の調査

『讃岐遍路道 郷照寺 調査報告書』第2分冊

調査機関：香川県・香川県教育委員会

調査期間：令和7年度（令和7年度 報告書刊行）

調査概用：建造物・石造物・所蔵文化財の調査

②根香寺道

『讃岐遍路道 しろみね道 調査報告書』

調査機関：香川県・香川県教育委員会

調査期間：平成23年度（平成23年度 報告書刊行）

調査概要：測量調査、発掘調査、石造物の調査

『ミュージアム調査研究報告 根香寺総合調査』第4号

調査機関：香川県歴史博物館（現：香川県立ミュージアム）

調査期間：平成17年度～平成18年度（平成24年度 報告書刊行）

調査概要：所蔵文化財等の総合調査

『四国八十八ヶ所霊場第八十二番札所 根香寺調査報告書』

調査機関：香川県・香川県教育委員会

調査期間：平成21年度、平成23年度（平成24年度 報告書刊行）

調査概要：建造物・石造物・所蔵文化財の調査

③國分寺道

『讃岐遍路道 國分寺道 調査報告書』

調査機関：香川県・香川県教育委員会

調査期間：令和6年度（令和7年度 報告書刊行）

調査概要：測量調査、石造物の調査

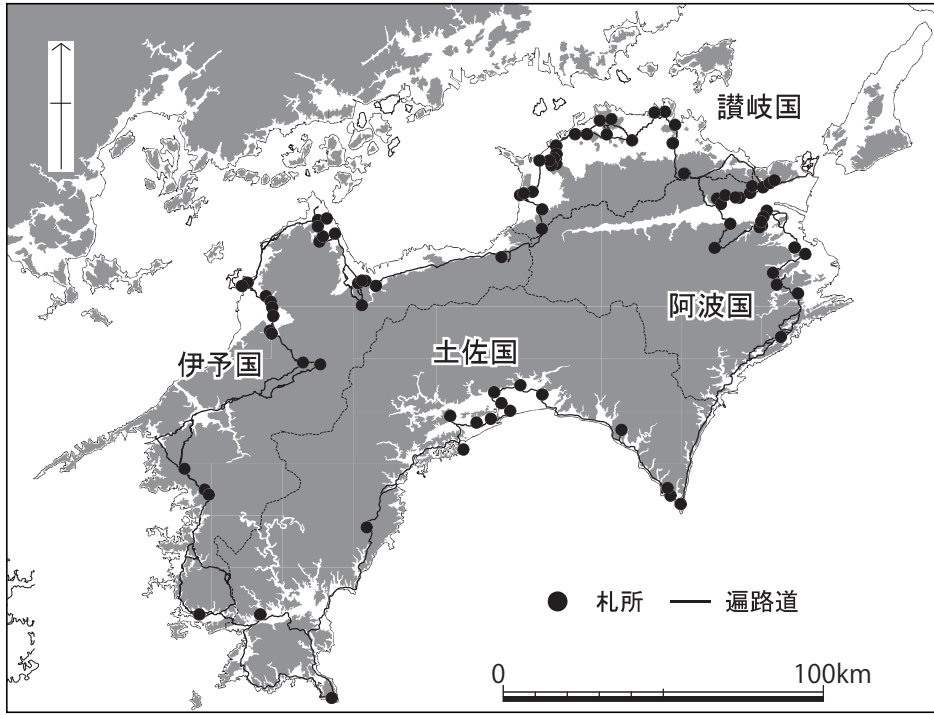
④長尾寺境内

『四国八十八ヶ所霊場第八十七番札所 長尾寺調査報告書』

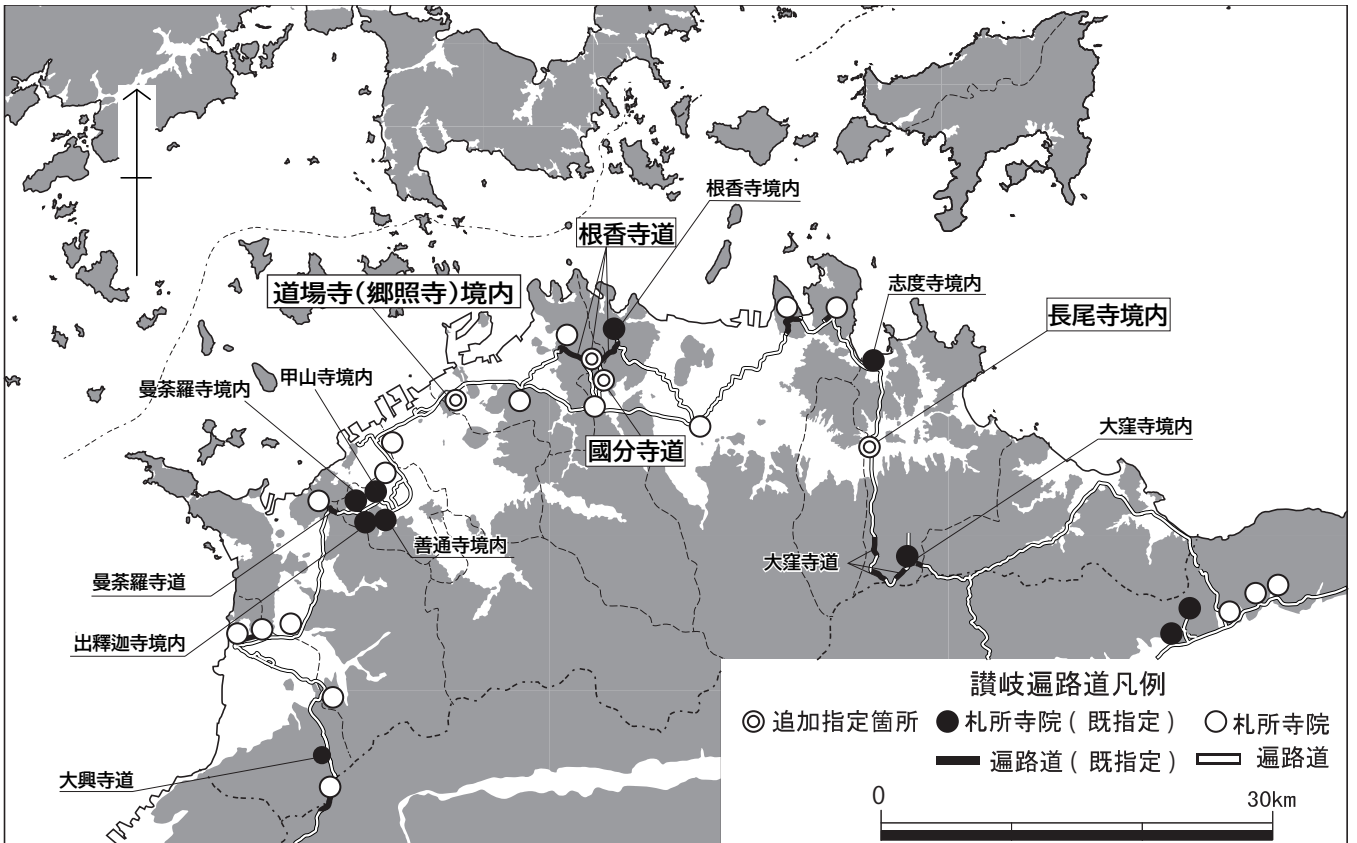
調査機関：香川県・香川県教育委員会

調査期間：平成27年度（平成29年度 報告書刊行）

調査概要：建造物・石造物・所蔵文化財の調査



四国島内の札所と遍路道の位置



◎追加指定札所 78 道場寺(郷照寺)境内 87 長尾寺境内
 ◎追加指定道 根香寺道 國分寺道

●既指定札所 72 曼荼羅寺境内 73 出釋迦寺境内 74 甲山寺境内 75 普通寺境内
 82 根香寺境内 86 志度寺境内 88 大窪寺境内

■既指定道 大興寺道 曼荼羅寺道 根香寺道 大窪寺道

指定等の対象地域の位置を示す地図